

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目 的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成 果**
1. 無形文化財に関する調査研究
 - ア) 人形浄瑠璃文楽で用いられる義太夫節浄瑠璃に関する調査研究
 - イ) 日本の伝統楽器とその製作技術に関する調査研究
 - ウ) 染織材料(麻および絹)に関する調査研究
 2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
 - ア) 講談：連続口演の機会が激減している講談の実演記録を作成(一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席)
 - イ) 落語：伝承が危ぶまれている正本芝居噺の実演記録を作成(林家正雀師2席)
 3. 研究調査に基づく成果の公表
 - ア) 第11回無形文化遺産部公開学術講座「麻のきもの 絹のきもの」(共催・文化学園服飾博物館)の開催
 - イ) 無形文化遺産の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」(共催・泉屋博古館)の開催

- 論 文**・飯島満：「七世豊沢広助『義太夫 節と手順』『無形文化遺産部研究報告』11 pp.17-37 17.3
- 報 告**・山崎剛・鈴田由紀夫・原田一敏・長崎巖・荒川正明(編集構成：菊池理予)：「無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」セッション「『明治工芸』を現代に活かす」『無形文化遺産部研究報告』11 pp.125-139 17.3
- 発 表**・菊池理予：「文化財保護における 麻のきもの・絹のきもの」第11回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座 文化クイントサロン 17.1.18
- ・飯島満：「伝統芸能を伝えるカー人形浄瑠璃文楽を事例に一」アジア太平洋無形文化遺産研究センター『無形文化遺産国際シンポジウム一技と心を受け継ぐ一』 サンスクエア堺 17.11.19

研究組織 ○飯島満、前原恵美、菊池理予、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、早川典子(保存科学研究センター)、星野厚子(客員研究員)